

## 第2回 学校保健給食委員会より



今市特別支援学校

令和7(2025)年2月27日

2月12日に行われた第2回学校保健給食委員会についてお知らせいたします。今年度の定期健康診断後の受診状況及び給食に関する取組などについて話し合われました。また、学校医に代表の保護者の皆様や教職員からの質問に答えていただきました。



### 定期健康診断後の受診状況について

○定期健康診断は、疾病等の早期発見を目的に例年6月30日までに実施しています。所見のあった児童生徒には「受診勧告書」を配付しています。学校の検診は「スクリーニング・ふるいわけ」の検査であることを御理解いただき、受診につなげていきたいです。

○高度肥満で受診勧告を通知しましたが受診者は0人でした。肥満については、自覚症状や困り感がない場合、医療機関を受診する必要性を感じにくいのではないかと考えられます。

#### <学校医より>

○定期健康診断で指摘された際は、疾病等の早期発見、早期治療に向けて必ず受診をお願いします。

○肥満は持病からくるものもありますが、生活習慣等に関係するものは専門医による指導と御家庭の協力が必要になります。子どもたちが好んで摂取している飲料にも注意が必要で、甘い飲み物はかなりの砂糖が含まれています。水分補給は麦茶がおすすめです。甘い飲み物はお楽しみにして量を控え目にするなどしていくと良いでしょう。ペットボトル1本にどのくらいの砂糖が含まれているか視覚的に確認できるように掲示物等で知らせるなどすると分かりやすいのではないのでしょうか。



○内科の定期健康診断では、運動器検診も行い側わん症のチェックも行っています。直立が難しい児童生徒もおり、正確に診断できないこともありますが、今後もできるだけ丁寧に診ていきたいと考えています。

### 学校給食について～学校栄養士より研修報告～

○摂食・嚥下に関する基礎的な知識と食事支援技術を身に付け、食育への意識向上と摂食指導時の充実を目的として歯の健康センターの歯科医師を講師に「摂食・嚥下に関する職員研修」を行いました。講師からは、「摂食機能の発達段階を的確に判断し、その段階にあった訓練を行うことが大切」「テーブルや椅子、スプーン等の適切な選択について」など説明がありました。



○研修を受けた教職員からは「食べ物をよく噛まない児童生徒に対して、言葉掛けだけでなく、舌やほっぺたのトレーニングや姿勢をよくする言葉掛けなどアプローチが広がりました。」「食事において必要な力、発達段階、学校できそうな取組を知ることができて勉強になりました。」などの感想が聞かれました。



### 牛乳摂取向上キャンペーンについて

○本校は牛乳の残量が多いことから、カルシウムの摂取のためにデジタル紙芝居を作成し、牛乳摂取向上を図りました。「牛乳を飲もう」という意識づけにつながりました。

#### <児童生徒の様子>

○小学部:牛乳を全く飲まなかった児童が「あと10回飲んでみる。」など自ら牛乳を飲むようになりました。

○中学部:牛乳を飲む際に、「カルちゃん入っているね。」など紙芝居に登場するカルシウムの『カルちゃん』に親しみをもった感想を話す姿が見られました。

○高等部:牛乳が飲めない生徒でも、紙芝居の中でカルシウムが多く含まれている牛乳以外の食品を学び、進んで食べている様子が見られました。

138回飲んだよ。カルちゃん体に入ったね。ボンちゃん強くなった!



○家庭(保護者より):家庭では牛乳は飲みませんが、学校では飲んでます。カルシウムの摂取はおやつに小魚・アーモンドや料理に粉チーズを使うなどして工夫を心掛けています。

○学校医:アレルギーや乳糖不耐症と診断されていても、成長と共に食べられるようになることもあります。幼いころに「食べてはだめ。」と繰り返し言われると「食べるのが怖い。」「嫌い。」となってしまう傾向にあります。症状が改善している場合、主治医の指導のもと食べられるきっかけを作ってあげることが大切です。食に関しては、なんでもバランスよく食べることが大切で、高校生くらいになると鉄分、ミネラルも必要になってくるので、食事から上手に摂取できるように進めてほしいです。



**保護者からの質問 生の果物アレルギーへの学校での対応を知りたい。**

○栄養士:学校では、現在、生の果物はイチゴとミカンのみ提供しています。

アレルギーとなることの多い生のリンゴ、モモ、キウイフルーツなどは提供しておりません。

○学校医:卵、小麦、乳製品などは成長すれば食べられるようになるものもあるが、果物は食べられるようにならないことが多いです。家庭で食べるときは、主治医の指導のもと少量からスタートすると良いでしょう。

○保護者:今まで食べたことがない果物を初めて食べる時には、万が一アレルギー反応があってもすぐ受診できるように平日の昼間、病院が開いている時間帯にしています。

**感想 など**

○保護者:初めて学校保健給食委員会という会があることを知りました。参加して、保健や給食での取組を知ることができ安心できると感じました。

○保護者:学校の取組を多くの保護者に知ってもらうためにもっとアピールしても良いと思います。ホームページに写真が多く載っていると保護者はうれしいです。

○学校医:学校はいろいろなことに丁寧に対応していると思います。コロナ禍のときのように、同じ方向を向いて黙食よりも、対面で食べた方が味もおいしくなると思います。衛生面に気を付けながらみんなで楽しく食べるのが良いと感じています。

○校長:本校の重点目標の一つである「安全安心な学校づくりに努める」の中で、保健指導、給食指導は柱となります。取組の充実を図り、児童生徒の安全と健康を守るとともに、安全、安心な学校づくりに努めていきたいです。給食では、「食事を楽しむ」ということも忘れず、偏食指導も無理なく、楽しみながら進めていければと考えています。



今回は小学部、中学部から1名ずつの2名の保護者の方に参加していただき委員会を開催しました。学校の取組を知っていただいたり専門的な立場の方と話をしたりしながら、お子様たちの健康について、一緒に考える機会となりました。

学校医より助言のあった甘い飲み物に含まれる砂糖の量についての掲示は、児童生徒に向けてはすでに行っています。来年度は保護者の皆様にも見ていただけるよう、各学部の保護者会等に合わせ掲示できればと考えています。

専門的な立場の方からの助言や保護者の皆様からの御意見等を参考により安全安心な学校になるよう、また、お子様が健康に過ごせるよう工夫をしていきたいと考えています。

健康や給食について、聞きたいことがございましたら、担任を通して遠慮なく御相談ください。